

公益社団法人日本ホッケー協会(JHA)

令和3年度事業計画

新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期となった東京2020オリンピックの開催が実現し、男子代表サムライジャパンがメダル獲得を、女子代表さくらジャパンが金メダル獲得を果たせるよう、協会一丸となって目標達成を目指します。

また、オリンピックの国内開催を好機にホッケー競技の認知度を向上せしめ、ホッケーファミリーの拡大を着実なものとして、スポーツがもたらす健康で文化的な生活を通じて、平和と友好に満ちた世界を築くことに寄与します。

JHAはこの目的を達成するために、次の事業を行う。

本年度前半は東京2020オリンピックに向けた仕上げの時期にあたることから、代表チームの強化に注力する。また、競技役員の養成を図ると共にJOC、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都、品川区、大田区などとも協力しオリンピックムーブメント活動を推進していく。

年度を通して2021年以降を見据えたホッケー競技の普及・発展に必要な財政基盤の確立に向けた活動と、スポーツガバナンスコードを強く意識した公正で適切な組織基盤の整備と組織運営に努める。

ホッケーファミリーの新たな選択肢としてのインドアホッケーの開発をはじめホッケーの魅力を幅広く世間に知ってもらう活動にも努める。

2020年度に策定した『Japan Hockey Road to 2030』を東京2020オリンピックのもたらす成果を足がかりにリスタートさせ、2023年JHA設立100周年、2024年パリオリンピック、2028年ロサンゼルスオリンピックという節目で着実な成果をあげつつ目標達成することを目指す。

1. ホッケー競技の国内競技大会の開催に関する事業

(1)国内競技会

1)第40回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催場所:立命館OICフィールド(大阪:茨木市)、天理大学親里ホッケー場(奈良:天理市)

開催期間:2021年6月17日(木)～6月20日(日)

2)男子第84回・女子第63回全国高等学校ホッケー選手権大会

開催場所:小矢部ホッケー場・小矢部市野外運動広場・小矢部市陸上競技場(富山:小矢部市)

開催期間:2021年8月14日(土)～8月18日(水)

3)第43回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

開催場所:OSPホッケースタジアム・米原市伊吹第1グラウンド(滋賀:米原市)

開催期間:2021年8月14日(土)～8月16日(月)

4)第51回全日本中学生ホッケー選手権大会

開催場所:飯能市阿須ホッケー場・駿河台大学ホッケー場(埼玉:飯能市)

開催期間:2021年8月21日(土)～8月23日(月)

5)第19回全日本マスターズホッケー大会

開催場所:北海道立野幌総合運動公園ホッケー場(北海道:江別市)

開催期間:2021年9月4日(土)～9月5日(日)

6)男子第63回・女子第43回全日本社会人ホッケー選手権大会

開催場所:日光市ホッケー場・今市青少年スポーツセンターホッケー場(栃木:日光市)

開催期間:2021年9月18日(土)～9月22日(水)

7)第76回国民体育大会ホッケー競技

開催場所:名張市民ホッケー場・メイハンフィールド名張市民陸上競技場(三重:名張市)

開催期間:2021年9月30日(木)～10月4日(月)

8)第70回男子・第43回女子全日本学生ホッケー選手権大会

開催場所:駒沢オリンピック公園総合運動場 第一球技場(東京:世田谷区)など

開催期間:2021年10月30日(土)～11月3日(水・祝)

9)第22回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

開催場所:福井県立ホッケー場、越前町菅朝日総合運動場(福井:丹生郡越前町)

開催期間:2021年11月6日(土)～11月7日(日)

10)第2回マスターズホッケーJAPAN CUP

開催場所: 未定

開催期間:2021年11月20日(土)～11月21日(日)

11)第95回全日本男子ホッケー選手権大会 (※場所・期間ともに変更の可能性あり)

開催場所:赤磐市熊山運動公園多目的広場(岡山:赤磐市)

開催期間:2021年12月17日(金)～12月19日(日)

12)第82回全日本女子ホッケー選手権大会 (※場所・期間ともに変更の可能性あり)

開催場所:赤磐市熊山運動公園多目的広場(岡山:赤磐市)

開催期間:2021年11月26日(金)～11月28日(日)

13)第53回全国高等学校選抜ホッケー大会

開催場所:川崎重工ホッケースタジアム(岐阜:各務原市)

開催期間:2021年12月23日(木)～12月27日(月)

14)高円宮杯2021ホッケー日本リーグ

開催場所:大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場(東京:品川区・大田区)ほか8会場

開催期間:2021年4月～2021年12月

15)インドアホッケーフェスティバル

開催場所:アリーナ立川立飛

開催期間:未定

(2)登録

独自の登録システムをさらに充実させ、国内のホッケー関係者(役員・選手)にスポーツ少年団からマスターズまでの全カテゴリーにおける登録を確実に行っていただく。

本協会事務局が各都道府県協会と密接に連絡をとりながら連携を深め、一括データ管理を行い業務改善を進める。

(3)競技規則の制定及びホッケー競技規則(ルールブック)の発行

国際ホッケー連盟(FIH)が制定する競技規則をもとに、国内用の規則を制定しており、これらの諸規程をまとめた「ホッケー競技規則(ルールブック)」と「競技運営規程」、「ユニフォーム規程」、「競技役員規程」等をまとめた「ホッケーHand Book」を2年に一度発行、配布を行っているが、現在は公式ホームページからもデータのダウンロード可能としている。2021年度からは、インドアホッケー競技規則を追加する。

(4)施設・用器具の検定及び公認

日本国内におけるホッケー競技発展の為、本協会の規程に定める要件を満たす人工芝競技施設の公認制度を推進、また競技者の安全と快適なプレイを守る為、用器具の検定も実施する。

2.競技役員の資格付与に関する事業

(1)審判員の資格付与

審判員については、本協会が定める「公認競技役員規程」に則り、A級、B級、C級及びD級審判員資格を付与している。また本協会は、国際ホッケー連盟(FIH)やアジアホッケー連盟(AHF)の加盟団体として、相応しいレベルに達した審判員を国際審判員にする為に積極的に国際大会等へ派遣したりチー

ムに帯同させたりしている。

(2) 競技役員の資格付与

競技役員については、本協会が定める「公認競技役員規程」に則り、テクニカルデリゲート(TD)、テクニカルオフィサー(TO)、ジャッジ(J)、アンパイアマネージャー(UM)の資格を付与している。また国際ホッケー連盟(FIH)やアジアホッケー連盟(AHF)の加盟団体として、相応しいレベルに達したオフィシャルを積極的に国際大会等に派遣している。

【競技役員に関する取り組み】

- Japan Hockey Road to 2030 に基づき、中長期視点による競技役員の発掘、養成と技術の向上を図る。
- 資格審査室を設置して、公認テクニカルデリゲート(TD)、テクニカルオフィサー(TO)、ジャッジ(JG)、アンパイアマネージャー(UM)、A級、B級、C級、D級審判員の資格認定を行う。
また、国内競技大会開催中に不測の事態が発生した場合、その関係者の資格についても審議する。
- 女性の審判員及び競技役員の養成と育成を図る。特に女性審判員の養成は最重要課題である。
- 国際競技大会への審判員、競技役員の派遣業務を円滑に進めるためにも、語学力のある人材の発掘・育成を計画的に推進する。
- オリンピック、ワールドカップ、プロリーグ等の国際競技大会を視野に入れた国際レベルの審判員と競技役員の養成と充実を図る。
「2020 東京オリンピック」に審判員 1 名、競技役員 1 名を派遣することが決定した。
継続して派遣できるよう国際交流を積極的に行い、主要国際大会への派遣に努める。
- 国際ホッケー連盟、アジアホッケー連盟の要職への人材派遣に努め、日本人競技役員のプレゼンスを向上させる。
- 海外との審判員交流を図り、国内の審判員の技術向上と国際視野に立った審判員を育てる事業を推進する。
- 他競技団体との連携を密にし、他競技の有効なシステムを取り入れ、審判員と競技役員の組織活性化を図ると共に資質の向上を目指すプログラムを推進する。

3. ホッケー競技の普及、指導者の育成に関する事業【公1】

(1) コーチ3養成講習会／専門科目講習会(ホッケー競技)

主催：公益財団法人日本スポーツ協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：未定

開催期間：未定

目的：地域において、競技者育成のための指導にあたりとともに、広域スポーツセンター及び各競技別トレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる者を養成する。

(2)コーチ4養成講習会／専門科目講習会(ホッケー競技)

主催:公益財団法人日本スポーツ協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所:未定

開催期間:未定

目的:ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代から選抜された競技者の育成強化にあたるとともに、国際大会等の各競技大会における監督・コーチとして競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる指導者を養成する。

(3)指導教本の販売

名称:ホッケー指導教本／発行日:2013年8月29日(改訂版)

販売単価:1部につき2,000円

目的:各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させる

(4)ホッケーチャンネルの開設

日本ホッケー協会のホームページにホッケーチャンネルを開設する。

目的:ホッケー競技の紹介(競技、用具、ルール、技術・戦術等の動画によって説明、解説する。

ジュニア指導者向けの練習、トップチームの練習等も公開する。

【ホッケー競技の普及に関する取り組み】

- 各ブロック協会(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)との連携により、中長期的な視野に立った根本的な普及策を模索、検討し、その上で必要な施策を実施する。
- 小学生など幼少期からホッケーに出会えるようなホッケー体験会、オリンピックの派遣などの事業を国内で広く展開する。夢見るスポーツ教室、スポーツ大会をブロックで開催する。
- U-12ホッケードリームキャンプを開催し、小学生に夢を与える取り組みを実践する。
- (公財)全国中学校体育連盟への加盟推進やスポーツ拠点づくり推進事業の継続支援を通じて、中学校世代の更なる普及と発展を図る。また、全国大会及び予選大会を通じて、「マウスガードの義務化」を行うなど、成長期の生徒達に対する安全面への配慮について継続した取り組みを行う。
- 国体参加チームの登録選手数が適切な数となるよう、(公財)日本スポーツ協会と協議するとともに、連携を図る。
- マスターズ年代の諸活動を充実させることで、生涯スポーツとしての方向性を確立すると共に、地域におけるマスターズ活動の活性化を図る。マスターズ11人制大会の実施、普及を図る。
- 各都道府県協会と協働して、総合型地域スポーツクラブとの連携を図り、発展的な普及活動を模索する。

【指導者育成に関する取り組み】

- スポーツ少年団の活動指針である「発育と発達」に基づく指導を呼び掛け、ホッケーの楽しさを子ども

達に伝える。

- 公認指導者講習会を実施し、指導者の養成と指導技術の向上を図る。また、既資格取得者の資格更新システムを確立し、指導者が常に学ぶことの出来る機会を構築する。
- 国民体育大会をはじめ、(公社)日本ホッケー協会主催大会へ出場するチーム指導者への公認指導資格の義務付けを厳守させる。その為に、各都道府県で受講出来るよう、コーチ1及びコーチ2資格取得養成講習会の開催促進に取り組む。
- 一貫指導者教本に基づいた正しい指導を広く実践する。また、有資格指導者を組織化し、指導に関する情報を共有できる機能を整備する。
- U-21までの指導体系を確立させ、シニア代表への意欲を持たせる。
- U-21までの海外派遣の機会を効果的に行い、「パリ 2024 オリンピック」を見据えた選手強化に併せて、海外における指導情報の収集を図る。

4. ホッケー競技の競技力向上に関する事業、並びに国際競技大会の代表者選定及び派遣に関する事業

(1)選手強化

■競技者支援

(独)日本スポーツ振興センター「アスリート助成」を受け、対象競技者に向けた財政支援を行う。

- 強化合宿、海外遠征 については今後の新型コロナウイルスの動向により変更の可能性あり
国内強化合宿(サムライジャパン)／年10回予定、国内強化合宿(さくらジャパン)／年12回予定
国内強化合宿(U21 男子)／年7回予定、国内強化合宿(U21 女子)／年7回予定
国内強化合宿(U18 男子)／年3回予定、国内強化合宿(U18 女子)／年3回予定
海外遠征・招聘(サムライジャパン)／年1回予定、海外遠征・招聘(さくらジャパン)／年5回予定
海外遠征(U18 男子)／開催国:ヨーロッパまたはオセアニア

開催期間:2022年2月

海外遠征(U18 女子)／オランダまたはオセアニア

開催期間:2022年2月または2021年9月頃

海外遠征(U15 男・女)／開催国:オーストラリア

開催期間 2021年11月下旬

日韓競技力向上スポーツ交流(U18 男女)男子:11月:日本、女子:10月下旬:韓国

(2)国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

【男子】

アズランシャーカップ(サムライジャパン)／開催国:マレーシア

開催予定 2021年6月18日～27日

アジアチャンピオンズトロフィー 10月

アジアカップ 開催地、開催時期未定

ジュニアアジアカップ大会(U21 男子)／開催国:バングラデシュ

開催期間: 2021 年 7 月 1 日～10 日

ジョホールカップ大会(U21 男子)／開催国:マレーシア

当初開催予定 2020 年 10 月～11 月の間の 14 日間を延期、開催時期未定

ジュニアワールドカップ大会(U21 男子)／開催国:インド

開催期間: 2021 年 11 月 24 日～12 月 5 日

【女子】

アジアチャンピオンズトロフィ(さくらジャパン)／開催国:韓国

当初開催予定 2020 年 6 月 14 日～21 日を 2021 年 3 月 31 日～4 月 6 日に延期したが

再延期となった。開催時期未定

アジアカップ(さくらジャパン)／開催国及び開催時期未定

ジュニアアジアカップ(U21 女子)／開催国:日本・岐阜

開催期間:2021 年 8 月 16 日～8 月 22 日

ジュニアワールドカップ／開催国:南アフリカ

開催期間:2021 年 12 月 5 日～12 月 16 日

(3)新たなアスリート育成パスウェイによるタレント発掘

学校部活動のホッケー部やホッケークラブに所属している者に限らず、ホッケーに適性を有する潜在能力(ポテンシャル)の高いタレントを見だし、優れたコーチングスタッフによる質の高い育成プログラムを提供するJSCが推奨するタレント発掘・育成プログラム(TID/Talent Identification and Development)によるタレント発掘・育成に努める。

- 1)今年度より JSC による J-STAR(Japan Rising Star Project)に参画する。
- 2)地域タレント発掘・育成プログラム(九州、福岡県、和歌山県、埼玉県など)との連携による発掘および選手選考測定会や検証合宿へのスタッフ派遣
- 3)U15日本代表中央選考会において、タレント発掘枠を設け、新たなパスウェイによる日本代表の選考を実施

(4)医科学サポート

- 1)国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿においてドクターやトレーナーを派遣、またドーピング検査を実施する。
- 2)(公財)日本アンチドーピング機構発行の冊子を配布して、啓蒙活動を行う。

【ホッケー競技の競技力の向上に関する取り組み】

- 男女ジュニア、ユース、ジュニアユース日本代表を恒常的に編成し、年代別一貫指導強化体制の下に、「東京 2020 オリンピック」においてメダル獲得を念頭に入れた積極的な強化活動を実施し、国

際競技力向上に繋げる。

- 一貫指導システムの拡充の為、ターゲットエイジ構想をさらに進展していく。
- スポーツ基本法を具体化した、国立スポーツ科学センター(JISS)の、ジュニア期からトップレベルに至るまでの発掘・育成・強化に対するスポーツ医・科学・情報面からの高度な支援、国際競技大会におけるコンディショニング調整など効果的に JISS の指導を受け、内外の情報分析と医科学的見地を取り入れた代表チーム・選手個々人の競技力向上を図る。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)及び国際ホッケー連盟(FIH)と緊密に連絡を取り、アンチドーピングの周知徹底を図り、居場所情報や合宿時における講習会等を実施して、選手指導者に協力と義務を認識させる。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)の指導の下、国内における国際大会並びに国内主要大会においてドーピング検査を実施する。指導者にドーピング検査への協力徹底と、国内のドーピングコントロールオフィサー(DCO)の養成を図る。

5. 広報活動

(1)ホームページおよび SNS による情報発信

JHA ホームページや SNS での情報発信のより一層のレベルアップを図る。特に、東京 2020 大会に関連した一部ページをリニューアル(5 月予定)するとともに、国際ホッケー連盟(FIH)の広報・マーケティングチームと連携を図りながら共通のアセットを使用したプロモーション施策を実施していく。また、地域活動情報サイトの新設を図る。

(2)東京 2020 オリンピック対応

7 月の東京 2020 大会の開幕に向けて、男女代表チームの活動情報を伝える記者会見開催などのプロモーション活動を積極的に進める。またユニフォームスポンサーをはじめとして各種メディア、大会組織委員会、大田区・品川区への各種情報提供を随時行うようにする。

(3)試合動画

YouTube を活用した試合動画については、今年度も JHA 主催全大会の配信を可能な限り実施する。現状のハイライト映像編集を継承しつつ、内容のさらなる充実を進め、主催大会の決勝戦をメインに LIVE 配信を行う予定。

(4)イヤーズブック

名称:「ホッケーマガジン・イヤーズブック」/毎年 1 回、6 月初旬発行

販売単価:2,200円(税込)(予定)

目的:当該年度における JHA 主催の大会全記録、並びに本協会事業の各種情報を詳細に掲載。

全国のホッケーファンへの情報提供のため、紙媒体として Web でのみ販売する。また JHA の競技記録資料、並びに各都道府県協会への配布資料、各種メディア・スポンサーへの紹

介・PR 資料として使用する。

6. 東京 2020 オリンピック準備関係

延期になった東京オリンピック・ホッケー競技においては NF として担当する各種サポートを計画どおり実施する。オリンピック開催へ向け開催地東京でのオリンピックムーブメントの推進に取り組む。また東京オリンピックを契機にオリンピック後の日本のホッケーの環境をより良くすることをめざし、東京オリンピックの会場となる大井ホッケー場に関係する諸テーマに関して東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、品川区、大田区、東京都ホッケー協会等関係諸団体との連携を図り取り組む。

7. 国際活動

【国際活動に関わる取り組み】

- 日本のホッケー強化と国内における普及を目指し、国際ホッケー連盟(FIH)及びアジアホッケー連盟(AHF)と連携しながら国際活動を行う。両連盟の企画するイベントには出来る限り参加をし、協力する。
- 国際ホッケー連盟(FIH)及びアジアホッケー連盟(AHF)並びに各国ホッケー協会と連携して情報交換し、大会参加を通じて海外と積極的に交流活動を行う。
- 国際ホッケー連盟(FIH)及びアジアホッケー連盟(AHF)と密接な連絡を取ると共に、国際会議や国際競技大会等に参加し、最新の国際情報を取得する。
- 国際ホッケー連盟(FIH)及びアジアホッケー連盟(AHF)との更なる連携強化のため、ロビー活動を積極的に行うことで競技役員として主要な国際大会で活躍出来る人材の登用と育成を図る。
- 日本代表チーム等の国際競技大会、海外遠征の支援活動(連絡や交渉、情報収集)を行う。また、招聘情報を関連団体に提供する。
- 海外代表チーム等の日本への招聘事業に関しては、強化本部との協力の下に行う。
- 日本国内における国際競技大会開催時に現地実行委員会、本協会事務局と共に、中心的な役割を果たす。
- (公財)日本オリンピック委員会等が主催する国際関係会議に参加する。

8. マーケティング

中長期的な観点での強化、普及・育成事業を十分に実施できる強固な財政基盤確立のための活動を実施する。

(1) 東京 2020 大会関連

男女代表チームの壮行会を実施し記念品を製作する。また、スポンサー感謝の集い(2019年2月と同様)を実施し、ホッケーファミリー全体の結束力が高まる企画を行う。

(2) パートナーシップ活動の実践

JHA の理念やビジョンの浸透、日本のホッケー競技のブランディングを進めながら、パートナーであるスポンサーやサプライヤーとの間で密な意思疎通に努め、協賛価値の共有、アクティベーションの継続的な実践と見直し、関係の長期に亘る安定的な維持ならびに拡大を目的とした人間関係の構築に取り組む。具体的には既存のパートナーの権益の整理・再設計と、アクティベーションの見直しを含めた新たなセールスシートを作成する。

(3)社会共創活動への取り組み

大井ホッケー競技場を核とした地域・社会との共創活動への取り組みを本格化させ、スポーツによる地域共創の活動に賛同を得られるような新たなスポンサーの獲得を狙う

(4)SNS の活用等のデジタルマーケティングの実践

デジタルマーケティングの外部専門家とも意見交換をしつつ、SNS 発信を念頭に置いたコンテンツの作成・発信に努める。

9. 総務・財務に関する事業

(1)ホッケーに関わる人一人一人がより高い倫理観に従って行動し、コンプライアンス意識を高める。

- ①コンプライアンスの推進に関する基本方針を広め、確立する。
- ②選手、役員等のコンプライアンス研修会を積極的に開催する。
- ③関係団体においても、コンプライアンスの重要性を伝えていく。
- ④インテグリティ・アンチドーピング教育を充実する。
- ⑤日本ユニセフ協会が提唱する「子どもの権利とスポーツの原則」の賛同式を行い、子どもの成長を応援する取り組みを実践する。

(2)JHAの組織運営にガバナンスを行き届かせる。

- ①事業運営や決定の透明性を図り、マネジメント機能の強化を図る。
- ②諸規程に基づいた決裁権限を遵守することを徹底する。
- ③事業実施はすべて決裁を受けてから行うことを意識づけ、徹底する。

(3)財務規律を確立し健全な協会運営を図る

- ①予算制度に基づいた業務執行を浸透させ、徹底する
- ②計画的な事業執行を行い、運転資金や余裕資金を確保する
- ③中長期財務計画を立て、財務状況の安定化を図る。

(4)スポーツ庁のスポーツ指針を尊重し、実行する

- ①東京 2020 オリンピック、普及活動に向け、JOC や JSC からの補助金を、効果的に活用する。
- ②JOC の方針を確実に受け止めて JHA として実行し、実現させる
 - ・ガバナンスコード適合性審査に向けた組織のあり方を検討していく。
 - ・環境保護への取り組みを周知し、JHA 主催、後援等かかわりのある大会のプログラムに JOC 環境ポスターのページをとってもらう

- ・選手が安心して競技に取り組める環境づくりに取り組む
 (賭博、八百長、覚せい剤等から選手を遠ざける)
 (JOC のコーチ育成施策を活用する)
- (5)スポーツ少年団、中学生ホッケー大会の開催、支援を通じて日本のホッケー界の裾野を広げ、ホッケー人口が増えるよう取り組む
- (6)サイバーセキュリティ対策に取り組む。
- (7)SEM制度により、適切に国際親善試合を開催する。さらに、地方に広めて行く。
- (8)既存協賛企業以外のスポンサー開拓に取り組む、取り組める人材を確保する。

10 (公社)日本ホッケー協会 諸会議

令和3年度総会・理事会の開催日程

(1)定時総会

開催場所:未定

開催日程:6月初旬(土)午後1時～

(2)理事会

開催場所:JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE(新宿区)など

開催日程:年5回開催予定、日程未定

11 Japan Hockey Road to 2030 ～東京 2020 レガシーでホッケーの新時代を創る～

2020 年東京オリンピック開催決定を契機に世の中がスポーツに、そしてホッケーにもより注目することとなる。しかし 2020 年東京オリンピックは始まりにすぎず、そのレガシーを活用して JHA は何ができるのかを考える必要がある。さらに 2023 年 JHA 設立 100 周年、2024 年パリオリンピック、2028 年ロサンゼルスオリンピックと、向こう 10 年 JHA にとって転機となるマイルストーンが多数存在する。

そのため、JHA として今後 10 年を見据えて「Japan Hockey Road to 2030」を策定し、今後 10 年の活動の基盤となる理念・ビジョン・スローガンを再設定した

JHA の理念

ホッケーを通じてスポーツ文化の振興に努め、豊かな社会形成に貢献する

ビジョン

JHA は、ホッケーファミリーのつながりを大切にし、
 ホッケーファミリーの未来への活力を創造し、
 ホッケーファミリーの豊かさと楽しさの提供に努めます

スローガン

Try all !! (for the hockey family)

全力で全員でやるべきことをやってみよう、やり尽くそう、
 挑戦あるのみ。それは未来のホッケーファミリーのため

基本指針

1. ホッケーを通じて楽しみ・感動を分かち合い、お互いに支え合えるような社会を実現することを目指す
 - ① ホッケーを通じて日本を元気にしていく
 - ② 社会に貢献する
2. 「ホッケーファミリー」の拡大に向けて行動する
 - ① ホッケーに何らかの形で関与する人々を「ホッケーファミリー」と定義
「競技者のみならず、家族、指導者、地域、行政、教育機関、職場、観客、視聴者、ファン、スポンサー、メディア等ホッケーに何らかの関与をもつ人々」
 - ② 一人一人がホッケーファミリーのために行動する
 - ③ 社会に幅広く支持される組織・選択される競技となることで、結果としてホッケーファミリーが拡大することを目指す
3. 基本的な考え方を尊重する
 - 人の重視(「する」「みる」「ささえる」)
 - 連携・協働の推進による開放的な組織
 - 未来志向でのアプローチ